

今回は2学期始業式での話です

今日から2学期がスタートします。皆さん一人一人は、どんな夏休みを過ごしたでしょうか。私は、まず、ここにいる皆さんが、今日、こうやって登校できたことをうれしく思いますし、それが一番大事なことだと思います。

中には、夏休みの課題が終わっていないことが気になっている人もいるかもしれません。また、夏休み中の出来事やこれから始まる2学期について心配なことがある人もいます。担任の先生でもいいですし、自分が話しやすい先生でもかまいませんので、ぜひ、相談してください。

今日は、私がこの夏に体験したエピソードについて一つ話をしたいと思います。
私は、この8月6日に、甲府市の中学生の派遣団の団長として、広島を訪問しました。
8月6日・広島と聞いて、分かった人もいます。

私が参加したのは、79年前の8月6日にアメリカ軍によって投下された原爆で亡くなられた方々(直接は約20万人、その後、原爆による放射能などの後遺症で亡くなった方たちを合わせると34万人になります)を追悼し、平和を祈る、広島平和記念式典です。この式典では、岸田総理大臣や国連代表の話などがありました。私の心に強く残ったのが、広島市の小学校6年生加藤あきらさんと石丸ゆうとさんの「平和への誓い」でした。一部を紹介します。

目を閉じて想像してください。緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。

昭和20年、1945年8月6日 午前8時15分。「ドーン」という鼓膜が破れるほどの大きな音。

人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。

ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。(中略) 今もなお、世界では戦争が続いています。

生きたくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、今も、この世界のどこかにいるのです。本当にこのままでよいのでしょうか。

願うだけでは、平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。 私たちにもできる平和への一歩です。

皆さんはどう感じたでしょうか。私は、広島の小中学生2人が記念式典に集う人たちに向けて投げかけたメッセージ……「私たちにもできる平和への一歩」の部分が強く印象に残りました。もう一度読んでみます。

一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。「私たちにもできる平和への一歩」です。

この2人のメッセージは、学校生活にも、当てはまることだと私は思います。2学期には青雲祭や新人体育大会、合唱コンクールなど大きな行事があり、多くの人と力を合わせて取り組まなければならない場面がたくさんあります。また、毎日の学校生活も、様々な考えを持った人たちとの共同生活です。様々なトラブルも起きるかもしれません。自分の思い通りいかないこともあるかもしれません。でも、それが当たり前です。人は違っているからこそ面白いのだと思います。

一人一人の違いを集団としての力に変えるのは、広島の人たちが言ったように、「相手の話をよく聞くこと」、「違いを良さとして捉え自分の考えを見直すこと」、「仲間と協力し一つのことを成し遂げること」だと思います。

そして、そういった態度を身に付けることが、「平和への一歩」にもなるのだと思います。

平和が当たり前でないこと、そして、日々の生活に臨む姿勢・態度が平和な社会を作っていくことにつながることも、あわせて伝えたくて話をしました。

2学期が始まります。皆さんが、授業や学級、そして、行事など様々な場面において、相手の話をよく聞き、違いを認め合い、仲間と協力して進む。そんな2学期になることを期待しています。 **Let's Try!**